

Asahi ディスクロージャー優良企業の受賞に寄せて

アサヒグループホールディングス株式会社 IR部門 ゼネラルマネジャー 石 坂 修

当社は「証券アナリストによるディスクロージャー優良企業選定」において、2016年度個人投資家向け情報提供の優良企業に選定されました。同受賞は3回目であり、経営トップが継続して個人投資家向け説明会に取組んでいることに加えて、ホームページや各種報告書を通じて、事業環境や中長期の経営戦略を分かりやすく説明していることなどをご評価頂いているものと認識しています。

また業種毎の優良企業選定においても、前回まで12年連続して優良企業賞を頂戴しており、このたび順位は第2位となったものの、総合評価点は前回を上回っているなど、アナリストの皆様から引き続き高いご評価を頂いていることに対して大変光栄に存じております。

昨今、日本版スチュワードシップ・コードやコーポレートガバナンス・コードの策定などに応じて、日本企業の経営スタイルに加えてアナリストや投資家の皆様の視点は、より持続的な成長や中長期的な企業価値の向上にシフトしてきているものと思われます。

そうした流れの中、当社は「長期ビジョン」については10年程度先を見据えた事業の将来像を付加して更新すると共に、従来の「中期経営計画」については「中期経営方針」として改め、これまでどちらかと言えばアクションプラン型であった内容から、中期的な経営の方向性に重点を置いた

形式に移行しております。具体的に「中期経営方針」では、①「稼ぐ力」の強化、②資産・資本効率の向上、③ESGへの取組み強化の3つを重点課題に設定しており、こうした「長期ビジョン」や「中期経営方針」をステークホルダーとのエンゲージメント・アジェンダ（建設的な対話の議題）として、より中長期的な視点での対話に努めております。

今後は、より公平な情報開示を求めて金融庁からフェア・ディスクロージャーに関する新ルール案が示されるなど、企業とアナリスト・投資家の皆様との対話の環境は更に変化していくことも想定されます。また、国内外で経済の不確実性が高まる中、当社も従来の延長線上ではない大型買収に取り組むなど、今後は建設的な対話を更に深めながら、中長期的な成長ストーリーを実行に移していくことが求められております。

こうした外部及び内部の環境変化を踏まえながら、アナリストの皆様には、引き続き国内外の深い知見に基づいて、これまで以上に中長期的な視点に立ったご指摘やご示唆を頂ければ幸いです。当社としても、今回の受賞を励みとして、より進化したフェア・ディスクロージャーの形を模索しながら“企業価値向上経営”の更なる深化に取り組んでまいりますので、引き続きご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。